

渋谷でデモしてきましだ!!

「第四二回全都反弾圧闘争 参加報告」

はじめは日比谷公園へ

九月八日八時前、新大阪発の「こだま」で正午に東京駅着、急ぎ乗換え地下鉄で二駅、日比谷公園の霞門に到着。丁度、明日の闘争に向けた街頭情宣が始まる所であった。東京の争議団連絡会議(争団連)のメンバーを中心にマイク宣伝とビラまきで昼休みの官庁街に訴えかける。残暑が戻り、強い日差しとアスファルトの照り返しが厳しい。濃い影を求め、信号を待つ人々にビラを手渡すが、取ってくれる人は少ない。

共謀罪が施行された中で、の弾圧は他人事ではない。労働者、市民の日常が監視下に置かれる。最初は、「暴力団」等を標的に共謀罪を適用し、徐々に質も量も拡げていく。運動(労働、市民、環境)を自粛(萎縮)せず、逆監視を強めて行こう!と呼び掛ける。

東京地裁に申入れ

午後一時からは、東京地裁への申し入れ行動。裁判官が、争議団や闘う労組への民事弾圧(仮処分、間接強制・損害賠償)

を乱発し、争議つづしと現場行動規制を強めているからだ。

◆争団連の大道測量闘争に対しては、最高裁決定(確定判決で支持された労働委員会命令違反)に従わない元社長の言いなりになって、社長が申立てた組合役員の自宅差し押さえと競売開始決定を出すという暴挙に出た。裁判官の常識を疑い、政治的意図を感じる。組合側は、供託金を積み控訴による執行停止状態に持ち込んでいるが、言語道断、不当極まりない!

◆東京ふじせ企画の実質的な使用者・学研ホールディングスは「間接強制

決定違反」を理由に、二度目の組合員自宅差押え!!強制競売申立てを行っている。組合側は、この不当な申立ての執行停止と併せ、請求異議を提訴している。

そもそも間接強制は「不作為義務の履行の強制」が目的であって、「金の取り立て」を目的化するものではない。学研側の組合攻撃と争議つづしを目的にした強制競売申し立てと裁判所の不当決定に満腔の怒りを!

全争交に向けて

来年第三七回全国争議団・労組交流会、交流集会(全争交)へ向けた二

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!

回目の企画会議が、その後、中目黒の住区センターで行われた。各地の争議報告、各戦線の攻防状況等が討論され、来年三月四・五日の関西開催までの取り組み、任務分担が概略、確認された。

港合同の仲間の参加を呼びかけます。

弾圧やめろーデモ

九日午後一時から第四二回全都反弾圧闘争が行われた。

集会に先立って、毎年、会場前までたむろし、集会監視、妨害を続ける公安私服警察に対し抗議行動を展開しているが、今年はたったの七名が山

手通りの向かい側に散らばっているだけだったため中止にした。しかし、共謀罪施行と盗聴法拡大、状況下で、いつでも弾圧を可能にする権力側の構えに油断大敵は言うまでもない。

集会は、①破防法・組対法反対共同行動②天皇要らない実行委③沖縄一坪地主関東ブロック④オリンピック要らないネット⑤経産省前テント広場⑥韓国サンケン闘争を支援する会⑦医療監察法を許すなネットワークの七団体からの連帯アピールがあった。

基調提起と全国争議団・労働組合の紹介に続き、

①戦争と治安弾圧に反対する決議 ②労働法制大改悪に反対する決議 二本を挙げ二労組の決意表明とシュプレヒコールで終了。

渋谷に向けデモ！

今年のデモは、集会場の関係でコースが変わり、例年より五〇〇メートル長くなった。しかも道玄坂など山手沿いで坂の多いアップダウンコース！デモ参加者一〇七名をざっと見渡し、三〇代以下は

少ない！五〇〜六〇代が中心、七〇代以上も、そこそこおられる陣容のデモ隊列。デモ出発時は、沿道監視や隊列を規制す

る子や孫の世代の制・私服の権力諸君を叱り飛ばし、意気軒昂にコールを挙げていたが、次第に疲労が濃くなるのも致し方ない。野宿者を排除する渋谷区役所前、解雇断行の東邦エンタープライズ前ではひととき大きく抗議のシュプレヒを発した。最後の渋谷駅前スクランブルでは、観衆も多くなり坂ともあって、横断幕、プラカードをより高く掲げ、元氣に行進、注目度も高かった。

港合同の皆さん、来年、一緒にデモしませんか。

南労会支部 I